

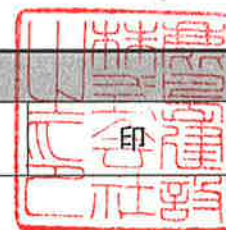
環境省・オフセット・クレジット(J-VÉR) 認証運営委員会 御中  
(事務局:気候変動対策認証センター)

平成 23 年 / 月 6 日

## 温室効果ガス排出削減・吸収量認証依頼書

オフセット・クレジット(J-VÉR) 制度における検証が終了しましたので、利用約款記載のダブルカウントを回避するための措置を適切に執り行うことを誓約のうえ、下記の温室効果ガス排出削減・吸収量の認証を依頼いたします。

プロジェクト名			
鹿島グループ・バイオディーゼル活用プロジェクト			
【依頼者】 プロジェクト代表事業者			
事業者名(フリガナ)	鹿島建設株式会社(カジマケンセツカブシキガイシャ)		
住所	東京都港区元赤坂 1 丁目 3 番 1 号		
代表者氏名	中村満義	代表者役職	代表取締役社長
担当者氏名	三浦一彦	担当者 所属部署・役職	環境本部・次長
担当者 E-mail	miurakaz@kajima.com	担当者電話番号	03-5544-0743
プロジェクト事業者・プロジェクト参加者			
プロジェクト事業者名	鹿島建設株式会社(カジマケンセツカブシキガイシャ) 株式会社都市環境エンジニアリング(カブシキガイシャトシカンキョウエンジニアリング)		
プロジェクト参加者名	なし		
オフセット・クレジット(J-VÉR) 取得予定者			
事業者名(フリガナ)	鹿島建設株式会社(カジマケンセツカブシキガイシャ)		
	以下のうち当てはまる項目に☑ <input checked="" type="checkbox"/> 本プロジェクトのプロジェクト代表事業者である。 <input type="checkbox"/> 本プロジェクトのプロジェクト事業者である。 <input type="checkbox"/> 本プロジェクトのプロジェクト参加者である。		
妥当性確認・検証機関			
妥当性確認機関名	気候変動対策認証センター		
検証機関名	株式会社 JACO CDM		



プロジェクト情報	
プロジェクト登録番号 (4 ケタ)	0028
プロジェクト登録日	平成 22 年 4 月 28 日
プロジェクト概要 <sup>1</sup>	<p>(具体的な内容を簡潔に記載すること。)</p> <p><b>【プロジェクトの目的・内容】</b></p> <p>鹿島建設株式会社のグループ会社である株式会社都市環境エンジニアリングが都内の商業施設等から回収するは廃食油を用いバイオディーゼル燃料の製造を行い、これを同社の廃棄物回収車の一部、及び鹿島建設の建設工事における建設機械等の燃料(中央環状品川線シールドトンネル(北行)工事におけるディーゼル・ロコ用発電機燃料)として活用することにより、温室効果ガス排出削減に貢献する。</p> <p><b>【適格性基準との整合性】</b></p> <p>条件1: 精製されるバイオディーゼル燃料の原料である廃食油は、レストラン等の商業施設で使用された植物性の廃食油であり、プロジェクトがない場合にはエネルギー利用はされていない。</p> <p>条件2: バイオディーゼル燃料の精製方式は、メタノールを用いたエステル交換方式である。</p> <p>条件3: 精製されるバイオディーゼル燃料により代替される車両等の燃料は、軽油である。</p> <p>条件4: プロジェクト内で使用されるバイオディーゼル燃料は、全国バイオディーゼル燃料利用推進協議会モニタリング規格を満たしている。</p> <p>条件5: バイオディーゼル燃料を使用する都市環境エンジニアリングの車両は、全てバイオディーゼル 100%使用車両として車検を取得したものである。また、ディーゼル・ロコ用発電機は、ディーゼル機器であり個別に特定されている。</p> <p><b>【法令遵守状況】</b></p> <p>東京都火災予防条例: 廃食油、メタノール、バイオディーゼル燃料等の貯蔵に関し許可取得。</p> <p>道路運送車両法: バイオディーゼルを燃料とする車両は、自動車車検証に廃食用油燃料を使用する旨の記載。</p> <p>廃棄物の処理及び清掃に関する法律: グリセリン及び排水の処理を専門業者に委託。</p> <p><b>【採用技術】</b></p> <p>製造装置1: 株式会社セベック EOSYS50 製造装置2・3: 株式会社セベック EOSYS200M</p>

<sup>1</sup> プロジェクト概要はプロジェクトの目的・内容の他、適格性基準との整合性・法令遵守状況・採用技術・モニタリング方法・GHG 算定式の方法論への準拠性・モニタリング体制・QA / QC 体制等に関することを3ページ以内で具体的に記述してください。登録時から変更がなければ登録時と同内容を、登録時から変更がある場合は相違点を具体的に記述してください。

		<p>なお、BDF 使用車両等は BDF100%を使用。</p> <p><b>【モニタリング方法】</b>  活動量:製造時消費電力(B)、メタノール使用量(A)、車両への給油量(C)、建設機械の消費量(A)、回収・運搬距離(C)、運搬回数(A)  発熱量・排出係数:BDF 品質規格への適合(実測)、電力排出係数、その他はデフォルト値を使用</p> <p><b>【GHG 算定式の方法論への準拠性】</b>  方法論に完全に準拠</p> <p><b>【モニタリング体制】</b>  プロジェクト統括責任者(鹿島環境本部)、算定・報告作成者(鹿島環境本部)、BDF 製造・車両部門(都市環境エンジにアリング)、工事部門(鹿島中央環状品川線シールドトンネル(北行)工事</p> <p><b>【QA / QC 体制】</b>  教育・訓練、データの確認情報管理、内部監査、測定機器の維持管理を適切に実施。  (その他特筆すべき事項)  特になし</p>					
モニタリング結果概要 <sup>2</sup>		<input checked="" type="checkbox"/> プロジェクト計画に基づきプロジェクトを実施した。 <input checked="" type="checkbox"/> モニタリング計画書に基づきモニタリングを実施した。 <input checked="" type="checkbox"/> モニタリング方法ガイドライン・方法論に準拠した GHG 算定を行った。 (その他特筆すべき事項) 特になし					
適用モニタリング方法 ガイドライン		<p align="center"><u>オフセット・クレジット(J-VER)制度モニタリング方法ガイドライン</u>  (排出削減プロジェクト用) ver.2.1(登録時)</p>					
適用方法論		方法論番号	JEAE004 ver. 2(登録時)				
		方法論名称	廃食用油由来バイオディーゼル燃料の車両等における利用に関する方法論				
<b>モニタリング結果</b>							
モニタリング期間		2009年 4月 1日～ 2010年 7月 31日					
<small>&lt;方法論R001・R003のみ&gt;</small> モニタリング対象面積		該当なし					
排出削減・ 吸収量	年度	2008	2009	2010	2011	2012	合計
	t-CO <sub>2</sub> <sup>3</sup>	—	81	72	—	—	154
認証依頼削減・吸収量		<b>154 t-CO<sub>2</sub></b>					

<sup>2</sup> モニタリング概要は、モニタリング方法において特筆すべき事項があれば記入してください。

<sup>3</sup> 小数点以下は切り捨てとし、トン単位で記載してください。よって、小数点処理のため、表記上では単年度の削減量・吸収量の合計と、各年度合計量が異なることもあり得ます。

ダブルカウントの防止の措置			
ダブルカウントの防止の措置を講ずる事業者	鹿島建設株式会社		
ダブルカウントの防止措置内容	J-VER 実施規則 1.4 に基づき次の措置を行う。①バウンダリが同一である類似制度に申請しない、②第三者に移転する際の環境価値の所属の明確化、③クレジット売却後に環境価値を主張しない。		
公的な報告・公表制度（判明している公的制度）	会社としては地球温暖化対策推進法に基づく算定・報告・公表制度の対象事業者であるが、当該プロジェクトによる削減分は同制度の報告対象としていない。		
自主的な報告・公表対象（対象となるホームページ、環境報告書等）	<p>CSR 報告書やホームページ等に記載する場合は以下の措置をとる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクトの紹介に加えて削減量について記載する場合は、J-VER の発行量や売却量について十分な情報を記載する。</li> <li>・クレジット売却後には、当該クレジットに付属する CO2 に係る環境価値の保有を前提とした主張は行わない。</li> </ul>		
ダブルカウント防止措置責任者（プロジェクト代表事業者と同様の場合は記載不要）			
事業者名	（プロジェクト代表事業者と同様）		印
住所			
代表者氏名		代表者役職	
担当者氏名		担当者 所属部署・役職	
担当者 E-mail		担当者電話番号	
備考欄			

以 上